

【展示フィールド】 観察ステーション、ギャラリー

【該当する学年】

小3

小4

小5

小6

中1

中2

中3

【展示の説明および学習内容（ねらい）】

☆ エントランスホールからギャラリーに進むと、右側に国内種を中心とした昆虫標本を展示しており、多種多様な昆虫を比較しながら体のつくりを観察することができる。

ギャラリーから観察ステーションを右方向に入っていくと、実物投影機や顕微鏡などを用いて、昆虫や植物の標本を拡大して細部を観察できるコーナーがあり、左方向に進むと、両生類のヒキガエルやイモリ、甲殻類のザリガニなど水生生物を生体展示している。

中心部分の展示は、学習館周辺で季節に応じて採取した動植物を生体展示しており、観察を通して四季の変化と動植物の移り変わりとの関連性を理解することができる。

☆ 四季に応じた展示を行うため施設内で最も頻繁に展示入れ替えを行っており、小学校4年の「季節と生物」や生活科で季節の生き物とふれあう単元など四季の変化を観察・体験する学習において効果的である。

昆虫の体のつくりについて比較したり、拡大したりして考えることができるので、小学校3年の「身の回りの生き物」において昆虫の体のつくりを視覚的・体感的に理解させる上でも有用なフィールドである。

中学校2年の「動物の仲間」で取り扱う動物の分類においては、魚類、両生類、は虫類、節足動物等の生体と鳥類やほ乳類のはく製を用いて、実物を通じた確認を行うことができる。

ギャラリーでは、定期的に写真パネルを入れ替えたり、コンクールの作品を展示したりしており、図画工作や美術における鑑賞の学習フィールドとしても機能する。

【写真】



【観察ステーション(顕微鏡)】



【観察ステーション(中央)】



【ギャラリー】

【学習指導要領】

エネルギー

粒子

生命

地球

学校種・学年	分野	内 容
小3年	内容B 生命 地球	(1)身の回りの生物-ア-(ア)・(イ)生物の姿の違い、周囲の環境との関わり、昆虫の育ち方の順序
小4年		(2)季節と生物-ア-(ア)季節による動物の活動の違い
中2年	第2分野	(5)生命の連続性-ア-(ウ)②生物の種類の多様性と進化